永久気管孔安全管理カードの運用

敷地全体を臨む鳥瞰

浜松市リハビリテーション病院
医療安全管理者（認定看護管理者） 沖原　由美子

施設紹介

1945年12月国立浜松病院して発足

1999年12月浜松市に病院が移譲される

2008年4月聖隷福祉事業団が指定管理者として受託運営開始

病床数：180床

診療科：リハビリテーション科、内科、整形外科

浜松市リハビリテーション病院　沖原由美子　提供

特徴的な医療

浜松市リハビリテーション病院　沖原由美子　提供

2011年（平成23年）12月
永久気管孔の閉鎖による窒息事故

2011年12月に脳内出血で入院中の70歳代の男性入院患者ののどに開けられていた呼吸用の穴を看護師が誤って塞ぐミスがあり男性が窒息死しました。

患者は約10年前、喉頭癌手術の際「永久気管孔」（直径２センチ）が開けられていました。気管孔をガーゼで覆って異物混入を防いでいたが、ガーゼが外れがちだったため、看護師が代わりに合成樹脂の粘着シートを貼って穴を塞いだ。カルテには「喉頭の摘出、気管切開あり」との記載はあったが、「永久気管孔」とは記されてなかったという。

（静岡県ナースセンター　医療・安全情報　平成24年度第2弾）

永久気管孔とは

- のど（咽頭・喉頭）やその近くに病気があって治療のため喉頭を取り除かなければならない時、呼吸のためにあける穴のことです。首のつけ根の前の部分に丸い穴があき、気管の出口が縫い付けられ、ここから呼吸するようになります。（2010年独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター）

緊急時は下記にご連絡ください

私の名前：
緊急連絡先：
かかりつけ：
連絡先：

声を出すことができません

手術で気道と食道が分離されており
口から呼吸することができません

永久気管孔を通して呼吸をしています
(人工呼吸が必要なときは気管孔から行って下さい)

浜松市リハビリテーション病院　沖原由美子　提供

人ごとではない！

浜松市リハビリテーション病院　沖原由美子　提供

当院での対応

2011年

12月5日　新聞報道

12月6日　臨時医療安全ニュース　各職場配布

（新聞報道切り抜き、永久気管孔の説明、職場でケアの点検周知を内容に盛り込む）

12月28日　医療安全管理委員会

- ⇒「気管孔を絶対塞がないで！」（資料参照）を作成して、患者のところに置く。
- 　退院時に渡し転院先に渡してもらう。小さいサイズも作って患者の首から下げてもらうこととした。

2012年

3月28日　永久気管孔安全管理カード運用作成

9月26日　永久気管孔安全管理カード運用改訂

永久気管孔安全管理カード運用

目的:永久気管孔を誤って塞ぐ窒息事故を予防する

● 永久気管孔の患者または、手術を受ける患者が入院してきた場合

つけるにあたって①②を説明し了承を得ること。

①使用する目的を説明する

②つける場所を説明し、名札をつけることが抵抗感があり、本人が拒否する場合には無理につけない。

浜松市リハビリテーション病院　沖原由美子　提供

☆A4カードを病室の患者ベッドサイドに掲示する。

☆名札サイズのカードを患者につけてもらう。（着替えをしたりする時つけ忘れないようにする）

☆退院時には、名刺サイズのものを渡す

説明は、「永久気管孔を知らない人が誤って塞いだりしないようにするためです。他の病院に入院したりした時に相手に理解してもらうためのカードです。他の人からみえる胸のあたりにつけてください。」

☆ADLがしっかりしていて自分で通院できるような方は名刺サイズのものを渡す。

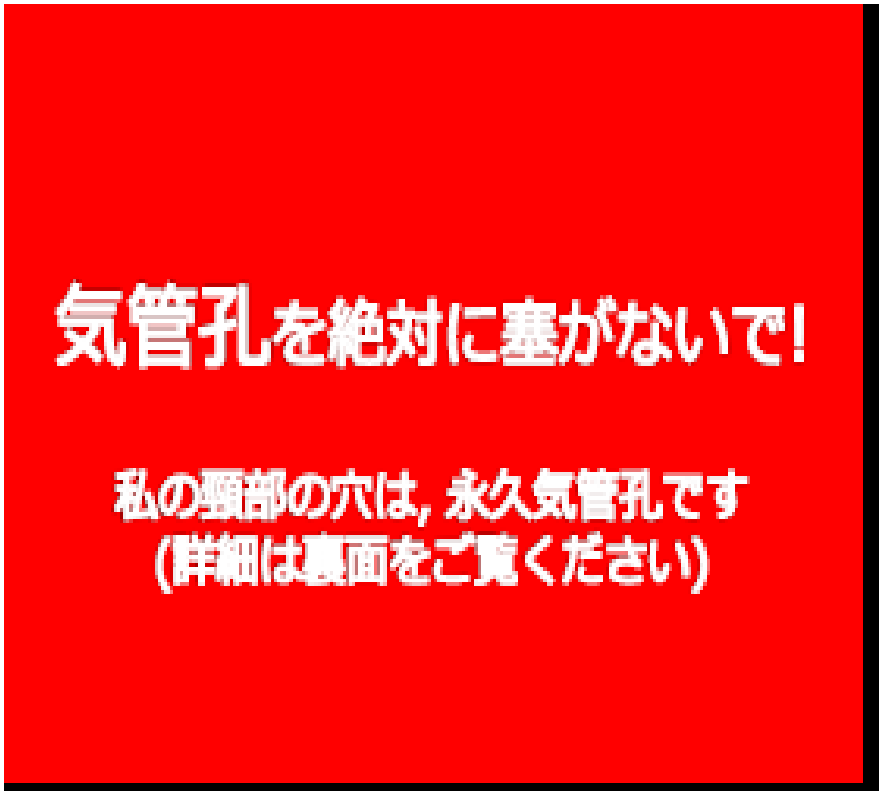
● すでに退院した患者は、外来通院してきた時に説明して渡す。

● 永久気管孔安全管理カードは、印刷室の棚に常時置き必要時に各職場で取りにいく。

2012年3月28日医療安全管理委員会承認
2012年9月26日医療安全管理委員会改訂

浜松市リハビリテーション病院　沖原由美子　提供

永久気管孔安全管理カード



浜松市リハビリテーション病院　沖原由美子　提供

浜松市リハビリテーション病院　沖原由美子　提供

浜松市リハビリテーション病院　沖原由美子　提供

浜松市リハビリテーション病院　沖原由美子　提供

今後の検討課題

１．永久気管孔のレイアウトの変更が必要か？
２．胸につける名札の固定やつけ忘れがないか？
３．つけることの患者や家族の反応はどうか？
４．永久気管孔を塞ぐ事故予防となったか?

浜松市リハビリテーション病院　沖原由美子　提供